

自然ふれあい講座(セミのぬけがらを探せ！2026) 実施報告

Report

主に小学生を対象に、身近な生き物であるセミのぬけがらを集め、それらの種類と数を調べることで、気候変動・地球温暖化などについて考えるきっかけとしていただくことが本講座の目的です。毎年同じ時期に同じ場所（県内6会場）で行っており、2012年の開始以降、本年度で15年目を迎えました。今年の参加者数は合計124名（うち子ども68名）で、4000個近いぬけがらが集まりました。

表1 各会場の参加者数とぬけがら数

開催日	会 場	参加者数	ぬけがら数
8/3 (月)	伊那(鳩吹公園)	31名(うち子供17名)	796 個
8/4 (火)	飯田(かざこしこどもの森公園)	15名(うち子供9名)	648 個
8/5 (水)	松本(アルプス公園)	21名(うち子供11名)	665 個
8/6 (木)	長野(川中島古戦場史跡公園)	20名(うち子供11名)	751 個
8/7 (金)	上田(市民の森公園)	19名(うち子供10名)	958 個
8/8 (土)	大町(市立大町山岳博物館)	18名(うち子供10名)	179 個



写真1 みんなでセミのぬけがらを探す

講座の前半では、野外でセミのぬけがらを集めます(写真1)。最初はぬけがらがなかなか見つからない子どもたちも、ぬけがらは木の幹だけではなく、枝先や小さな草、地面にもあるのがわかると、どんどん見つかるようになってきます。講座の後半では、集めたぬけがらを大きさ、色、触角の特徴(ふしの数とその長さや太さ)などをたよりに、種類ごとに分類しました(写真2)。なかなか大変な作業ですが、ちょっと珍しいぬけがらが何ゼミなのかを知ることができたり、人一倍たくさんのぬけがらを集めて嬉しかったりと、楽しく自然環境にふれあうことができたようです。



写真2 ぬけがらの種類と数を調べる

ぬけがらの分類が終わったら、みんなで集めたぬけがらの種類と数を集計します。アブラゼミはどの会場にもいますが、松本の会場ではミンミンゼミ、伊那ではヒグラシ、上田ではエゾゼミ、もそれぞれある程度の割合で見つかったことが特徴的です(図1)。同じ長野県内でも緯度や標高、周辺環境などに応じて気候や植生が異なるので、会場毎に見つかるセミのぬけがらの種類が異なると考えられます。年次変化では、伊那の会場ではアブラゼミのぬけがらの割合が増えているようにも見えます(図2)。このような変化の原因を明らかにすることは簡単ではありませんが、この講座を通じて子ども達が自然環境に親しみを持ちつつ、気候変動などに関心を持つきっかけになれば幸いです。

参加者のみなさん(特に子どもたち)には楽しんでいただけたようでとてもうれしく思っています。また各会場で共催・後援して下さった関係者の皆様、暑い中で協力くださったボランティアスタッフの皆様、ありがとうございました。(高野 宏平/自然環境部)

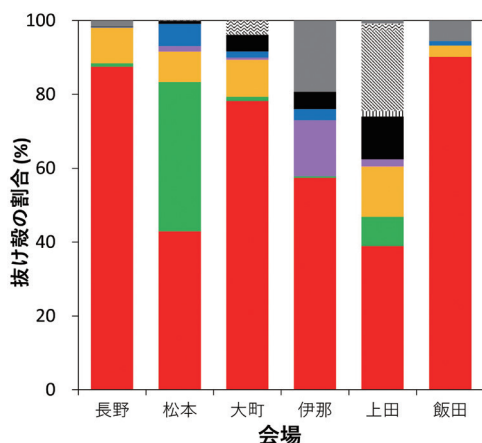


図1 2026年の各会場におけるセミのぬけがらの種類毎の割合

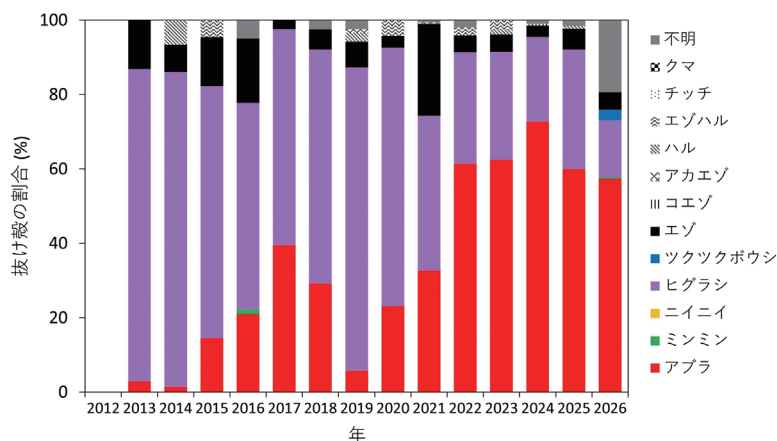


図2 伊那市鳩吹公園における各セミのぬけがらの割合の年次変化